

〔儀式〕踐祚大嘗祭儀

其門内外屏懸斑幔略○中其御膳座去禊處五十丈、雙立五丈斑幕二字、中置輕幄、

〔西宮記〕十二月荷前幣儀付兩班

御在所東西并南引班幕以坤角爲門、但西班幕同門巽角去八許丈、立十五丈幄一字爲南北、北二間内

藏寮爲辦備幣物所以班幕

御佛名

頭於御前定御導師次第僧略○註行事藏人催事内藏并御厨子所請主殿御湯班幕

〔貞信公記〕延長九年元承平三月五日、佐金吾來、左大辨、左中辨、右中辨、政大藏院主殿、班幕不可借諸

家宣旨、仰左中辨、

〔類聚名物考〕調度五油幕。雨皮是也、今俗には桐油とのみいふは、本は桐油幕なり、

〔酉陽雜俎〕禮異、魏使李同軌陸操聘梁、入樂遊苑西門内、青油幕下、梁主備三仗乘輿從南門入、

〔古今要覽稿〕器財、あげはり帷幕幄

太平記に油幕といふものあり、伊勢貞丈云、油幕はたゞ幕のことなり、唐の詞にて文をかざりて書たるなり、日本にて幕に油引ことはなしといへり、されども西土に油幕あることいまだ見ず、いづれよる所ある説ならん、

〔舜水文集〕十四、油幕、多雨積久能自焚、須知所以置之者、

○按ズルニ、油幕ノ事ハ、兵事部幕篇ニモ在レバ參看スベシ、

〔大相撲評判記〕上、水引幕古實

四本柱の上に張幕を水引幕と號るは、東西の力者精力を勵まして勝負をいどむ、是陽と陽とを闘かはす事なり、陽氣相戦ときは陽火を生、たとへば檜と檜とすり合すときは火を生ずるが如